『スピードアップ。もっともっとスピードアップを!!』
ー実践行動がないと企業は潰れるー

高井法博会計事務所　所長
TACTグループ関連11社　代表
税理士　高井法博

今や「ドッグイヤー」の時代といわれている。犬の年齢は一年が人間の七年分に相当する。また、「明治百年今一年」といわれるほど、企業を取り巻く環境の変化は早い。このスピードの速い変化に適応するためには、とにかく早い意志決定と俊敏な行動力が成功するための決定的な要因となる。

高井法博会計事務所　経営計画書の一部

我々は強くこれを意識し…特に「迅速(スピード)」・「確実」を強く認識し即行う。遅くとも二四時間以内の決断を原則とする。…と記している。

物事が起こった時、判断を迫られた各々が立場立場の責任において即決断し、即決定し即行動に移そうということである。この判断基準は経営計画書に、二百数十ページに渡り箸の上げ下げのような細部から記載されている。また、極力速く瞬時に正しい判断ができるように、年間研修計画に基づき、常日頃から大変な費用と時間をかけ、数多くの社内外での研修や図書・テープ・ビデオなどが用意され意思決定力を磨いている。人事配置も正しく迅速に決断し実行に移せる者に変えつつある。どうしても自分で判断できないものは上司・所長に判断を委ねる。二四時間以内の決断を原則とし、この間あらゆるところから意見を聞き情報を収集し、脳みそがちぎれる位に考えに考え、自らの判断で意思決定を行う。この時、絶対的な確信は持てないかもしれないが、決断をしないことや判断が遅れることが改善を遅らせ、より傷口を大きくし、場合によっては死を意味することになる。取り敢えず決定し、まずかったらすぐ補正する。あの松下幸之助氏や稲盛和夫氏でも厳密に言えば成功率は三〇%といわれている。プロ野球選手でも三割も打てば一流選手であると捉えれば良いのではなかろうか。「決断」「巧遅は拙速に如かず」仕事の早いのは七難隠す。少々の欠点もあらも、仕事熱心で早い者の前では物の数ではなくなるのだ!!

「スピードは金なり」

コストダウンの発想の基本は、「時間をかけずにやる=スピードアップ」という事である。とかく「なるべく金をかけずにやる」という方が目に見えるコストダウンとして重視される。しかし、枝葉末節のわずかな金額的な節約よりも、スピードアップの方がより効果的だということを経営者として理解すべきである。なぜなら、会社経営というのは殆どの企業で最も大きな経費は人件費であり、一ヶ月間、一年間に莫大な固定費がかかっている。言い換えると、二四時間・三六五日間、夜だろうと休日だろうが、決まった費用が川の流れのように社外にどんどん流出していっている。この費用分以上に稼働日に稼がねば赤字になってしまう。「時は金なり」の意味を真剣に受け止めていただきたい。もはやじっくりと考えて行動するほどの余裕はない。すぐに着手しスピードアップに全力を尽くしていただきたい。早く成果を出すために、どうすれば良いかを考え実行に移してほしい。

中小企業ほどスピードアップが可能である。

大変な不況の真っ最中であるが新聞を見るとスピードを持って大変革を成し遂げた企業の増収増益が日増しに多くなっている。一方、中小零細企業は益々厳しさを増し、廃業倒産が相次いでいる。本来組織が単純で少数の経営者だけで決断が可能な中小零細企業は、小回りが利き変化に対する適応が早いはずである。中小零細企業が大企業に比べ有利性を発揮するためには、経営者の意志決定と行動をスピードアップすることが不可欠である。

今こそ、徹底的に勉強し人一倍働こう。

迅速な正しい判断のためには社長自身が徹底的に勉強し自らを徹底的に鍛えてほしい。勉強しないで会社が良くなる訳がない!!酒と夜のつき合い、ゴルフをやめる。公職を辞める。重役出勤から早朝出勤にし、自ら営業部長を兼ね前線に立とう。中曽根臨調で会長を務め、かつて東芝再建に辣腕をふるった故土光敏夫氏の口癖は、「非常時には社員は三倍働け、重役は十倍働け。俺はもっと働く」というものだった。こういった意識が仕事に集中する火の玉のような姿勢に現れ、激しい炎のような情熱が、普通の企業に見られるありきたりのプログラムを戦略的な運動に変化させ、企業を変身させてしまう。ここに一流経営者の共通点があるように思う。